

## 日吉台地下壕保存の会

## 会 報

## 第11号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

〒223

横浜市港北区下田町3-15-27

☎ 045-562-1282 (寺田貞治方)



第3回総会で「謀略秘密基地・登戸研究所の謎を追う」のテーマで記念講演をして頂いている法政二高の渡辺賢二先生

## 目 次

頁

○会の存在を大切に	1
○第3回総会報告	2
○1990年度活動報告	2
○1990年度決算報告書	3
○1990年度決算報告説明書	4
○1991年度予算	5
○第3回総会アピール	6
○1991年度運営委員・ 会計監査・顧問	7
○1991年度活動方針	7
○1991年度会費納入 についてお願い	8
○編集後記	8

## 会の存在を大切に

会長

永戸多喜雄

日本帝国時代の装いを引き継いで、旭日をかたどった軍艦旗をひるがえした掃海艇隊が、軍艦マーチに送られてペルシャ湾に向かった。どんなに小規模なものであっても、あの軍艦旗を掲げた艇団が目の前に出現したら、太平洋戦争の悪夢を思い起こさずにはいられない人々が、東南アジアはもちろん、この日本だって沢山生き残っていることを、企画演出に当たった連中は知らないであろうか。そんな筈はない。彼らがあちこちに代表を送って、いやいやながら、戦争中にかけて迷惑を詫びるふりをしたのを見ても、彼らの意図は明白である。国民を愚弄し、開会中の国会の審議にもかけず、閣議決定だの、政令だのという便法を使って、他にもすることが幾らでもあるというのに、ことさらに掃海艇隊を送り出したのは、軍艦旗で識別される海上自衛官船をペルシャ湾に見参させるためだと思われれない。このようなことが白昼堂々と行われるのは、主権在民という思想が欠落した独裁政治そのものといわなければならない。

私達が日吉台地下壕保存の運動を静かに進めている今、私達を取り巻く日本の社会は、おかしな方向に横滑りをはじめているらしい。この会が三年目の活動にはいるに当たって、私達は初心を確かめながら、会の存在を大事に守って行きたいのである。

# 第三回総会

## 報告

日時：四月二〇日（土）

午後二時～五時

場所：慶應義塾大学

藤山記念館大会議室

ビデオ「松代大本営」上映

午後二時～二時三〇分

松代△△

午後二時四〇分

～三時四〇分

記念講演

テーマ：「謀略秘密基地・

登戸研究所の謎を追う」

講師：法政大学

第二高等学校教諭

渡辺切之助員一先生

時間：午後三時四〇分

～五時

7、一九九一年度予算案  
説明

8、6、7の活動方針案、  
予算案の質疑応答及び

承認

9、大会アツピールの採択  
と承認

10、新会長挨拶

五、議長解任

六、閉会の辞

一九九〇年度反  
活動報告出口

会結成から早くも二年が過ぎました。一九九〇年度の活動も、活動報告書にもありますように、様々な活動をして参りました。これも会員の方々の御支援と御協力の賜と厚く感謝申し上げます。

会員の数も、この一年間で一〇〇名近く増え、現在三三九名となりました。会報も、第六号から第一〇号まで五回、順調に発行することが出来ました。会員の方々からの寄稿も多く、増ページになったこともあり

ました。運営委員会は二回幹事会は七回それぞれ開催され、保存の会の推進力として大きな力を発揮しました。

保存の会の具体的活動として全会員を対象とした行事としては、日吉台地下壕見学会一回と、市ヶ谷の地下壕見学会一回だけでした。

これはもつと多く様々な行事を取り入れて会員に向けた活動を活発化する必要があるのではないかと思います。しかし、地下壕の見学会は、地元小中学校PTA・教職員、地区センター、区社会教育課などの団体の申し込みが多く、全体で八回行いました。日吉台地下壕に対する関心は非常に高く、毎回定員以上の申込があり、早く締め切ったり、抽選をしたりしている状況です。見学の感想文では、地下壕をぜひ保存してほしいという声が非常に多く寄せられています。

マスコミ関係では、この一年間にも日吉台地下壕と保存の会の事が度々取り上げられ、神奈川新聞、朝日新聞、ジャパントイムスなどに掲載されたり、TBS「ニュースの森」でも放映されたりしました。

調査活動では、この一年  
← 7ページにつづく



## 1990年度決算報告書

(単位は円)

	1989年度決算 1989.4.8-1990.3.23	1990年度予算 1990.3.24-1991.4.2	1990年度決算 1990.3.23-1991.4.2
収入の部			
会費	283000	247000	337500
カンパ	47460	0	19000
利息			11163
繰越金	0	186303	186303
合 計	330460	433303	553966
支出の部			
会議費	16069	20000	1280
事務費	10025	20000	26952
印刷費	20635	30000	32475
通信費	68949	100000	72999
資料費	14192	100000	3860
謝 礼	14287	50000	5961
予備費		113303	0
合 計	144157	433303	143527
差引残高 計	186303	0	410439

以上の通り報告します。

日吉台地下壕保存の会事務局長 寺田貞治 印

1991年4月6日

この報告により収支を監査したところ適正に処理されていることを認めます。

会計監査 森山高行 印

会計監査 天野喬子 印

## 1990年度決算報告説明書

収入の部  
会費

		1989年度		1990年度	
	口数	人数	合計	人数	合計
500円	1	10	5000円	3	1500円
1000円	1	229	229000円	218	218000円
1000円	2	4	8000円	26	52000円
1000円	3	3	9000円	12	36000円
1000円	5	1	5000円	4	20000円
1000円	6	1	6000円		
1000円	10			1	10000円
1000円	11	1	11000円		
2000円	5	1	10000円		
合計		250	283000円	264	337500円

## カンパ

1989年度		1990年度	
1800円*1口=	1800円	4000円*1口=	4000円
2660円*1口=	2660円	5000円*1口=	5000円
5000円*2口=	10000円	10000円*1口=	10000円
10000円*2口=	20000円		
13000円*1口=	13000円		
合計	47460円	合計	19000円

## 支出の部

会議費	保存会幹事会とプロジェクトチームとの会合
事務費	事務用品, 封筒, コピー代など
印刷費	会報, 総会案内, 見学案内などの印刷
通信費	会報の郵送, 幹事会の通知など
資料費	松代大本営のビデオ
謝礼	地下壕出入口の地主の方への御礼

## 1991年度予算

(単位は円)

	1991年度予算	1990年度決算	備 考
収入の部			
会 費	284000	337500	1000円×284人
カンパ	0	19000	
利 息	0	11163	
繰越金	410439	186303	
合 計	694439	553966	
支出の部			
会議費	10000	1280	各種会合費 封筒、コピー代等 会報、パンフレット等 会報、各種郵送代等 書籍・ビデオ等 地権者・講演者等へ
事務費	40000	26952	
印刷費	450000	32475	
通信費	150000	72999	
資料費	10000	3860	
謝 礼	20000	5961	
予備費	14439	0	
合 計	694439	143527	
差引残高 計	0	410439	

## 〔補足説明〕

収入の部の会費収入については、1990年度の会費納入者が264名で、その後の新入会員が20名（4月9日現在）であるので、 $1000円 \times 284 = 284000円$ とした。

支出の部で、事務費・印刷費・通信費が昨年度の予算・決算額に比べて増えているのは、今年度に署名・請願活動をする必要があるかも知れないからである。特に、印刷費45万円のうち40万円は、パンフレット代（ $200円 \times 2000部$ ）である。会員には全員無料配布し、残りは1部300円で頒布し保存の会の収入とする。謝礼は地権者の方や、講演会の講師の方に対するものである。

### 第3回総会アピール

日吉台地下壕保存の会が結成されて、はや2年が経ちました。この間、世界の情勢は激動し、東西の冷戦が終わり、東側世界に民主化の波が押し寄せ、ついにベルリンの壁もなくなりました。そして、人々は、今度こそ世界に真の平和がやってくるかに見え、期待を膨らませました。

しかし、世界の多くの人々の期待は裏切られ、湾岸戦争が起こりました。短期間に戦争は終わりましたが、この戦争のもたらしたものの大きさに私達は目を向けないわけにはいきません。20万人ともいわれる人々が死にました。前線で戦い、傷つき死んだ人の多くは、貧しい人達でした。イラクでは、まだ内戦が続き、クルド族を始め、多くの難民が、寒さと飢えと医療品の不足で、子供・老人など弱いものから毎日多くの人々が死んでいきます。また、クェートでは、500本以上の油井が破壊され炎上し大気が汚染され、ペルシャ湾では流れ出た原油で海が汚染され、環境破壊が深刻になっています。

戦争は、多くの尊い命を犠牲にするばかりでなく、大切な資源のムダ使いと環境破壊の最たるものでしかありません。このような戦争を見るにつけ、私達の運動がますます必要であることを痛感します。私達は、戦争を知らない世代に太平洋戦争の真実と実相を伝えていかなければなりません。

横浜市は、太平洋戦争で大きな惨禍を受けたにもかかわらず、その跡をとどめるものは地上には殆どありません。日吉の丘の下に眠る旧海軍連合艦隊司令部跡の地下壕も、いま残さなければ、太平洋戦争当時の激動の昭和史を語る構築物は殆ど無くなってしまいうでしょう。

私達は、こうした歴史的な貴重な遺産を、史跡として、また戦争と平和を考える学習の場として、現在及び後世の人々のためにぜひ残したいと思います。

そのために、私達は、これからも日吉台地下壕の整備と、保存・公開の実現に向けて、粘り強く運動を展開していくことを第3回総会の名において宣言します。

1991年4月20日

日吉台地下壕保存の会第3回総会



← 2ページからつづく

間めばしい進展はありませんでした。朝鮮人労働者の当時の実態もまだ解明されておりません。しかし、最近何人かの韓国の方々との連絡がつき話を始めております。全国各地には三千数百箇所（神奈川県には千数百箇所）に地下壕があるといわれ、ときどき各地の地下壕が話題になり、新聞やテレビで話題を呼んでいます。これらの地下壕を調査している人々とも連絡を取り、私達の調査活動を一層進めていく必要があります。全国各地の関係諸団体から、最近様々な資料が送られてくるようになり、情報交換も盛んになり、連帯の輪も広がってきました。

最後に、日吉台地下壕の保存についての進展状況を述べたいと思います。会報で既にご存じのように、港北区役所区政推進課では、一日吉台地下壕利用計画策定調査報告書」を横浜市に提出しましたが、これは「具体的に何をやってほしい」というものでなく「このような問題がありますよ」といったようなものであるようです。区政推進課で申請したと聞いている映像や活字による記録の保存のため、予算も下りなかったようです。市では今のところ日吉台地下壕の保存については、何の関心も示していない状況です。港北区には精一杯やってきて頂きましたが、区でやれることはこの辺までが限界であるとの事です。これから先は、やはり私達が中心になって横浜市に働きかけると、私達自身が資金を集めて地下壕を整備し保存・公開していく以外に方法がありません。

私達は、地域の人々に呼びかけ、保存運動を活発に進めると共に、市長、市議会議員などに対して、陳情・請願・署名活動を進めなければならぬ時期にきています。これからは、会員一人一人にいろいろとお願いすることになるのではないかと存じます。今後ともこれまでに以上にお支援助・御協力をお願い致します。これで一九九〇年度の活動報告を終わります。

一九九一年度  
運営委員会・会  
計監査・顧問

会長 永戸多喜雄  
副会長 薄井芳夫

幹事

田辺昇 谷栄 小園優子  
茂呂秀宏 亀岡敦子  
皆川法治 梅沢滋隆  
比留間淳一 久我俊二  
林栄美子 白鶴邦子  
谷藤基夫

一九九一年度  
活動方針

顧問

秋本謙三  
佐藤林平

会計監査

中沢正子  
森山高行  
天野喬子

事務局員

堀内利文  
馬養貞子  
寺田貞治  
加賀谷欣之助  
大西章

保存の会が結成されて、早くも二年が経ちましたが、この間、世界の情勢は目まぐるしく変化しました。東西の冷戦が終わり、ベルリンの壁もなくなり、これから真の平和がやってくるかに見え、世界の人々が期待を大きく膨らませていました。

しかし、この期待は脆くも裏切られ、湾岸戦争が起きました。この戦争はすぐ終わりましたが、多くの

問題を私達に突きつけました。日本の戦争体験が風化していく中で、湾岸戦争は改めて全ての人々に「戦争と平和について」考えさせたのではないでしようか。国際社会に対して、日本は如何に対応すべきか、厳しく問われています。これには日本が太平洋戦争について、厳しく反省した上でなければ、如何なる対処も世界の信頼は得られないでしょう。その意味で、私達の運動がますます重要になってきているのではないかと思います。

平和な世界を築き維持していくには、戦争を知らない世代に、太平洋戦争の真実と実相を正しく伝えていかなければなりません。そのためには私達は更に調査活動を活発に行い、地下壕の整備と保存・公開の運動を進め、多くの人々にこの日吉台地下壕から見える太平洋戦争の真実と実相を知って頂き、後世に伝えていかなければなりません。

今後の具体的活動としては、一、調査活動を更に活発に行う。

二、見学会・講演会・など様々な催しを活発に行う。

三、会報を発行し、パンフレットを作り、PR活動を活発化する。

四、全国の関係諸団体との交流を深め、情報交換を活発化する。

五、市に働きかけ、時期を見て市長や市議会議長に陳情・請願・署名活動を行う。

今年度は、現状を打開するために、特に、市への働きかけを、どうしても進めていかなければなりません。市を動かすには、今までとは比較にならないほどの運動が必要となります。時期を見て、市長や市議会議長への陳情・請願・署名活動などを行う必要があるかと思いますが、その時には、よろしく御支援・御協力をお願い致します。

## 一九九一年度 会費納入に ついての お願い

一九九一年度の会費を、まだ、お納めになっていない方は、なるべく早くお納め下さいますようお願い申し上げます。

会費は、個人一口一〇〇〇円、高校生以下一口五〇〇円、団体一口二〇〇〇円で、それぞれ一口以上です。

直接事務局にお届け頂いても、郵便振込でも結構です。郵便振込番号・名称は、次の通りです。

横浜二一六二九九七  
日吉台地下壕保存の会  
なお、一九九〇年度の会費未納の方は、一九九〇年度分も同時にお願い致します。

## 編集 後記

◆今年は、選挙と重ならないように少し総会を延ばしたため、余裕を持って準備ができた。

◆総会も四十一名の出席があり、総会もスムーズに進行し、議案もすべて可決された。

◆松代大本営のビデオはかなりの反響があった。また、「登戸研究所」の講演も、資料を用いての熱心なお話に、みんな真剣に耳を傾けていた。

◆見学会の感想など多くの原稿を頂きましたが、今回は総会の報告で紙面が一杯なので次号に廻させて頂きます。

◆会員も三七八名となり保存運動を理解する人も増え、盛り上がりを見せております。

◆三年目を迎え、今年度は更に飛躍の年とすべく皆さんの御支援と御協力をお願い致します。

